

地域全体で取り組む ～身延町 あけぼの大豆の推進～



10月

えだ豆収穫体験 in 下山会場

あけぼの大豆とは？

山梨県の南部に位置する身延町には、町の特産品の一つとして「あけぼの大豆」という在来品種の大豆があります。「あけぼの大豆」が栽培される地区は標高300～700mに位置し、昼夜の寒暖差が大きく、霧が発生するという特殊な気象条件であることから、良質な大豆を栽培するのに適していると考えられています。

毎年10月には枝豆収穫体験が開催され、昨年の来場者数は4000人を超えました。県内外からのリピーターも多く、身延町の特産品としての知名度も年々高くなってきています。

あけぼの大豆のここが違う！

あけぼの大豆と一般的な大豆の違いはなんと言っても「粒の大きさ」と「甘みの強さ」です。豆粒を10粒並べると6寸（18cm）になる大きさから、別名「十六寸」と呼ばれていました。また、一般の大豆の糖度が21度に対して、あけぼの大豆の糖度は24度と甘みが強いのが特徴です。あけぼの大豆は、栽培したその年の種子から選りすぐりの種子を次の年に使うため、地域ならではの特産品となっています。

さらなる推進を目指して

平成27年から、県では中山間地域総合整備事業により身延南部地区のほ場整備を行っています。この事業で農地の区画整理や農道・水路の整備を行うことで、多様な担い手によるあけぼの大豆の「生産の拡大」に繋がっています。

また、平成29年3月に廃校となった旧原小学校を再利用し、集荷から選別、出荷、加工品の製造までを一挙に行える「身延町あけぼの大豆拠点施設」が誕生しました。今まで生産者毎に行っていた枝豆の選別・出荷作業を機械等で行うことで、品質の統一と出荷量の安定化が期待されます。

～あけぼの大豆の成長～

大豆

11月下旬～12月中旬



枝豆が成熟すると



枝豆

10月上旬～下旬



開花

8月上旬



種まき

6月上旬～7月上旬



生産拡大に向けた取り組み紹介 in相又地区

くほ場整備く



整備前



整備後

小さい区画の畑をほ場整備工事で大きい畑にすることで農業機械での作業性が向上し、今までよりも手間と時間をかけずに多くの収穫が可能になります

～担い手農家の声～



農業生産法人レクラみのふ 遠藤 好一さん

ほ場整備した農地を借り受けた農家の方は「大豆を播種するのにかかる時間が以前に比べて格段に早くなった。」と語っていました。

また、あけぼの大豆の推進については「身延町の一大事業だよ」と話していました。

～図案商標登録～

さらなるブランド力を確立するため、「あけぼの大豆」を平成27年度に図案商標登録しています。

昨年は280人が栽培し枝豆と大豆合わせて約15トンを売り上げました。



廃校となった旧原小を大豆拠点施設に！



共選作業の様子



共選によりはね出しになった規格外品をゆでて加工しています



廃校となった旧原小を共選所と加工場に改築して、品質の統一と6次産業化を目指しています



あけぼの大豆を使ったシューマイ共選で規格外となった枝豆を加工しており、JAふじかわ中富直売所等で販売しています

お問合せ先

△ JAふじかわ中富直売所

住所：山梨県南巨摩郡身延町伊沼116

TEL: 0556-42-3311

FAX: 0556-42-3314

営業時間：9:00～17:30

休業日：火曜日、年末年始

